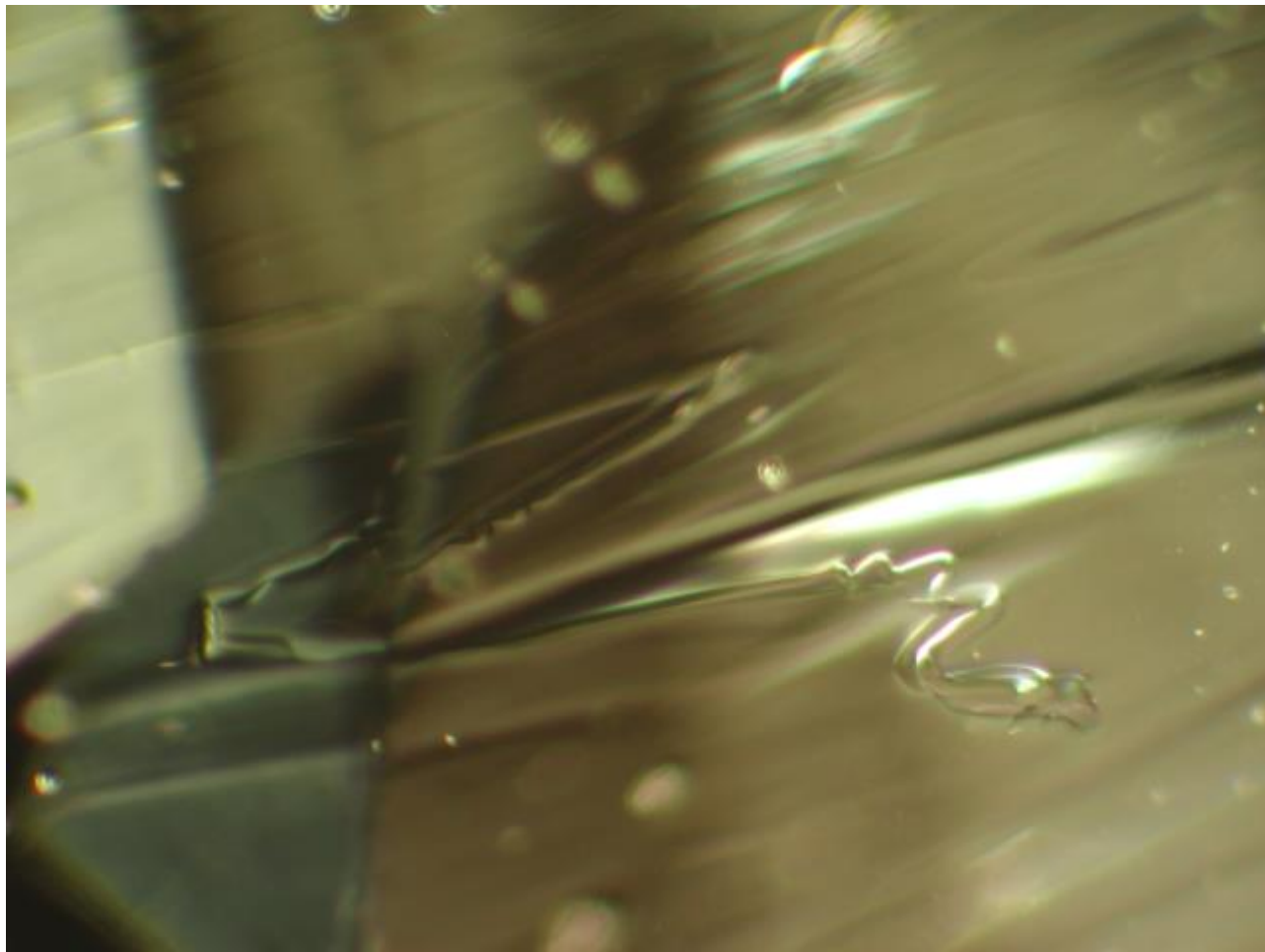


「モルダバイト中の脈理」



撮影・文： 高橋 泰 (倍率×62で撮影)

“脈理 (swirl striae)”とは、安価なガラスなどに見られる不均質組織のことである。熔融や攪拌の不均一で生じる屈折の差が縞状に見えるが、別な物質があるわけではない。モルダバイトの場合、溶けて固結する際に脈理ができるが、写真の様に複雑ならせん状をしている。通常の火山ガラスではこのような複雑な脈理は見られず、このことからモルダバイトは溶けて固まるまでの間、空中を回転していたと考えられている。中には高真空状態の気泡も見つかっていることから、高高度の空中で出来たともいわれている。これらのことから、モルダバイトは隕石の衝突の際、地表の岩石が溶けてガラス化し飛散したものと考えられている。